

# 発達障害者の障害特性を踏まえた相談の進め方

○我妻 沙織（障害者職業総合センター職業センター 上席障害者職業カウンセラー）  
上村 美雪（障害者職業総合センター職業センター）

## 1 はじめに

障害者職業総合センター職業センター（以下「職業センター」という。）では、平成17年度から知的障害を伴わない発達障害者を対象としたワークシステム・サポートプログラム（以下「WSSP」という。）の実施を通じて、発達障害者に対する各種支援技法の開発・改良に取り組んでいる。本発表では、令和5年度から取り組んでいる「発達障害者の障害特性を踏まえた相談の進め方」に関する支援技法の開発について中間報告を行う。

## 2 ワークシステム・サポートプログラムの概要

WSSPでは「就労セミナー」「作業」「相談」を関連付けた13週間のプログラムを実施している。具体的には講習や演習といった就労セミナーで得た職場対人技能等の知識やスキルを作業場面で試行し、相談でその結果を支援者と一緒に振り返る。そして、より効果的なスキルの実行方法等に関する考察や気づきを得て、再度作業場面で試行する、というサイクルを基本としている。

## 3 開発の背景・目的

### (1) WSSPにおける「相談」の役割

WSSPではプログラム支援期間中、支援者は対象者と毎週1回、個別の相談を実施し、対象者のプログラム内での言動や就労セミナーで得られた知識・スキルについて対象者自身がどのように捉えたかを確認し、自身の特性、困っていることや苦手なことへの対処方法、周囲から配慮を得たい事項等について、対象者とともに整理を行っている。

なお、講習や演習、作業などを実施した後に相談を行うことの意図は、対象者が講習や演習等を通して感じたことや学んだことを言語化し、支援者の共感等を通して対象者自身の受け止め方を深化させるとともに、これからの目標の具体化や目標に向けた行動変容を促進するためである。

WSSP受講後のアンケートにおいても「頭の中でモヤモヤしたり、うまく言葉にできなかったことが会話を重ねることで、自分の目標を言葉で表せるようになった」「自分の中で答えの無かったことが相談で整理され、自分の特性について多くの気づきを得られた」等といった相談の効果について感想が挙げられている。

### (2) 支援者の相談スキルの向上における課題

相談による経験の振り返りは重要な役割を有している一方で、これまでに発行した支援マニュアルにおいて、障害特性を踏まえた相談の実施方法の詳細までは分析されておらず、支援者がそれぞれ工夫しながら取り組んでいる現状が

ある。

相談スキルは基本的な面接技術の習得に加えて、実践とその結果や効果、改善点を検証し、再度実践することを積み重ねることで向上が図られると考えられるが、相談の多くは個室において対象者と支援者の一対一で行われるため、支援者が自らの相談場面においてライブスーパーバイズを受ける機会は入職時の一定期間を除いて限られている。

これらの状況から、的確な支援を実施している支援者が対象者との相談場面において、「どのような関わりをしているのか」ヒアリング調査等を通じたコンピテンシーを明らかにすることにより、支援者自身の相談スキルに係るセルフスーパーバイズへの活用も視野に本技法開発に取り組むこととした。

## 4 開発の視点

### (1) 本技法開発における「相談」の目的と対象者

本技法開発において取り上げる「相談」は、数か月という比較的短い期間の中で対象者と支援者のパートナーシップのもと、「経験を振り返る」「目標を設定し、実行する」「実行した結果を振り返る」ことを通して、対象者自身がストレングスを見出すことを目的としている。

また、相談を効果的に行うためには、対象者が自身の課題や特性を整理し、対処方法を検討することについてある程度の意欲があることも重要な要素である。そのため、今回の技法開発は就職や復職、職場適応に向けて自分自身の行動変容の必要性を感じている発達障害者との相談を想定している。

このような課題中心アプローチのもと、以下「相談」をより効果的に実施するためのこれまでの取組みについて概説する。

### (2) 地域障害者職業センター等への調査

令和5年度に地域障害者職業センター等（以下「地域センター等」という。）を対象にアンケート及びヒアリングによる調査を実施した。

これらの調査では「発達障害者との相談を行う際にどのような難しさを感じるか」という質問について、「対象者と支援者が共通認識を持つ方法」「対象者の特性に合わせた情報の伝え方や整理の方法」など、対象者の特性に応じた支援者の関わり方について難しさを感じる場面が広く挙げられた。

また、職業センターで開発した支援ツールの相談場面における活用については、「支援ツールの場面に応じた使い分けや効果的な活用にはコツが必要であり、支援経験の浅

い者には利用し難いものもある」等といった意見も挙げられた。

これらの地域センター等からの意見も踏まえ、技法開発では、①相談にあたって事前に押さえておくべきポイント、②相談内容や対象者の状況に応じた支援ツールの活用、③相談場面における対処行動の3点を中心に開発を進めている。

## 5 開発の内容

### (1) 相談にあたって事前に押さえておくべきポイント

相談の目的を効果的に達成するために、対象者のワーカビリティを高め、対象者自身が主体的に問題解決できるよう、支援者が事前に押さえておくべきポイントの整理を行っている。

#### ア 相談における支援の構造と対応

相談を効果的に行うためには、相談における構造すなわち構成要素と段階を対象者と支援者がともに理解し、構造に応じた適切な対応を取ることが必要である。相談の構造を図1のとおり整理するとともに、支援者の対象者への対応の方策についてまとめているところである。

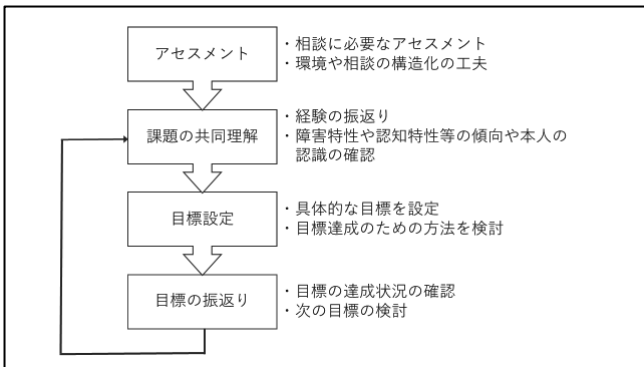


図1 相談における構造と段階に応じた支援者の関わり

### イ 対象者の特性に応じた工夫

相談では対象者の特性、取り上げる内容等に応じて、実施方法や環境設定に配慮する必要がある。そのため、相談場面における環境面での配慮や工夫、対象者と支援者が共通認識を持つためにできる工夫等についてポイントを整理した。表1はその一例を示したものである。

表1 相談時の工夫を検討するための視点と工夫の例

| 視点             | 工夫の例                                                   |
|----------------|--------------------------------------------------------|
| 感覚特性に応じた工夫     | ・ブラインドやカーテンで不必要なものを隠す、光を調整する<br>・座る位置は空調の下を避けて配置       |
| 相談内容の視覚化       | ・タイマーにより相談時間の視覚化<br>・ホワイトボードに相談内容を記入し、相談内容の整理や話題を明確にする |
| 安心して相談できる環境の確保 | ・対象者が心地よいと感じられるもの（ストレスボール、ホワイトノイズなど）を予め用意しておく          |

### (2) 相談内容や対象者の状況に応じた支援ツールの活用

複数ある支援ツールの中から、相談内容や対象者の状況に応じてより適切な支援ツールの選択に資するよう、支援ツールごとに効果的な使用方法について整理し、一覧化した。これにより、目的に応じて効果的な支援ツールの選択及び活用が期待できる。

### (3) 相談場面における対処行動

地域センター等の調査で意見が多く挙げられた「対象者の特性に応じた支援者の関わり方に迷う場面」における具体的な工夫や事例を収集した。上記(1)は支援者が事前に押さえておくべき事項であることに對し、ここでは場面ごとに具体的な支援者の対処行動を示すことで、支援者が対応に悩んだ際に、より適切な行動を選択しやすくなることを期待できる。

現在、支援ツールの活用例とともに相談対応の工夫例等、効果的な実践事例についても取りまとめているところである。

## 6 今後の方向性

発達障害者は情報を受け取り理解する「受信」、行動を選択する「判断・思考」、実際に行動を行う「送信」といった情報処理の過程において個人の特性や経験、信念等の影響を受け、対象者によって捉え方や表現の仕方が大きく異なり、他者との共通理解が図られにくい。そのため、支援者にとって限られた時間の中で情報を収集し、整理することの難しさがある。加えて、相談のノウハウは個々の支援者の中で暗黙知として蓄積されてはいても形式知として十分な共有がなされていないといった状況がある。

本技法開発は、課題中心アプローチによる地域センター等における典型的な相談場面を想定しており、その活用は日々の支援と直結するとともに、幅広く応用が可能であると考えている。経験の浅い支援者や相談を行う際に悩みを抱える支援者にとって、より効果的な相談支援の一助となるよう、令和7年3月に本技法開発の内容をまとめたマニュアルを発行する予定である。

#### 【参考文献】

- 1) 障害者職業総合センター『認知に障害のある障害者の自己理解促進のための支援技法に関する研究』「資料シリーズ No. 59」(2011)
- 2) 西ひろこ、西まゆみ、山本文枝『感覚過敏傾向がある子どもへの保育室におけるユニバーサルデザインを用いた支援』「安田女子大学大学院研究紀要第27集」(2022) p. 55-63

#### 【連絡先】

障害者職業総合センター職業センター企画課  
e-mail : csgrp@jeed.go.jp  
Tel:043-297-9042